



# 落羽松

観音寺市立観音寺東小学校  
平成23年度学校だより 第9号  
2012年 1月27日

1月10日(火)、本年度の総まとめの学期である3学期がスタートしました。当日の朝は、まだうす暗く寒かったのですが、子どもたちは挨拶を交わしながら元気に登校してきました。久しぶりに明るい声と笑顔に出会い、学校という学びの場の価値を改めて実感させられました。喜び勇んで登校してきてくれた子どもたちに、感謝の気持ちでいっぱいです。

始業式では、辰年2012年のスタートにあたり、子どもたちには次の内容の話をしました。趣旨をご理解の上、ご家庭や地域におかれましてもご支援・ご指導をお願いします。

1 とても短い3学期、時間を大切にして日々充実した学校生活を送って欲しい。

登校日数を数えると、6年生は今日を含めて49日、また1年～5年生は53日しかない。一日一日を大切にして、1年間の総まとめになる学期にして欲しい。

2 寒さに負けず、勉強や運動に一生懸命に挑戦する3学期にして欲しい。

「**何にも咲かない冬の日、下へ下へと根を伸ばせ**」という言葉引用し、この時期の気持ちの持ち方やがんばりは、進学・進級後の伸びや成長に大きく影響する。私たち人間の目には見えないが、植物たちは、この寒い時期に地中でしっかり根を伸ばしている。暖かい春を迎えたとき、大きく立派に成長するための準備を一生懸命していると言える。言い換えれば、この冬の寒い時期に、しっかり根を伸ばしたものが暖かくなって枝や葉を増やし、大きく生長しながら立派な花を咲かせ実を实らせる。

この言葉は、私たち人間にもあてはまる。寒いからといって、規則正しい生活ができなかったり、勉強や運動を怠ったりしていると、4月からの進学・進級後の勉強についていけなくなる。特に6年生は、勉強面でも行動面でも、最上級生として下級生のお手本となるよう、また進学しても恥ずかしくない力を身に付けておくようがんばって欲しい。

【お願い】 インフルエンザの流行により、欠席する子どもたちが増えてきています。学校では、これ以上の蔓延を防ぐために、手洗いやうがいの励行、咳エチケットなどについて指導を徹底しているところです。各ご家庭においてもご指導いただくとともに、家庭内感染を防ぐためにも、家族全員が実践されますようご理解とご協力をお願いします。

## 避難・消火訓練の実施



1月16日(月)、学校火災を想定した避難訓練と消火器を使った消火訓練を実施しました。今回は、火の粉やガラス片から頭を守るために、座布団を頭に乘せて避難しました。どの子も素早く頭に乘せ、教師の指示通りに安全に避難できました。その後、初期消火に欠かせない消火器の使い方についても学びました。「4mに近づき」「ピンを抜き」「ノズルをはずして火に向け」「レバーを押す」を全校児童が声を合わせて唱えながら練習しました。また6年生が代表して、3階にある避難袋を使った脱出の仕方についても学びました。

裏面もご覧ください

## 香川県学習状況調査の結果から

1 1月に3年生以上の学年で実施した「香川県学習状況調査」の結果（正答率）が届きました。全学年、ほとんどの教科や観点で県の平均正答率を上回っていました。また、分析・検証を進めていくと、下記のような本校児童の課題が明らかになり、今後改善に向けた取り組みを工夫していきたいと考えています。

- 国語 <聞く能力> ・話の中心に気をつけて聞くことができない。  
<読む能力> ・文章の要点を読みとる、段落相互の関係を考えて読みとることができない。  
(大切な情報だけを取り出す力を養わなければならない)  
・指示が複数になった複雑な問題について、読み落としが見られる。(出題の意図が読みとれていない)
- 算数 ・用語を忘れている。
- 社会・理科 ・用語を忘れている。用語が読めない。中途半端な暗記をしている。  
(5・6年生のみ実施) ・用語が表す意味が理解できていない。  
・学年間のつながりにおいて十分に学習が身に付いていない。

## 基礎学力や学習習慣の定着を目指して



<静かに学ぶ子どもたち>

本校では、学級での指導に加え、個別指導を通して基礎学力の定着を図る試みの一つとして、希望者を対象に「放課後キッズタイム」を行っています。毎週火曜日は2・3年生、木曜日は4・5・6年生です。週1回、約1時間の補充学習ですが、成果が表れてきています。また、家庭学習「ホームワークノート」による取り組みも定着し、ていねいな文字でいろいろな学習内容に挑戦したり、短期間に何冊も仕上げたりする子どもたちが増えてきました。

## 子育てのワンポイント

学校の評価というものには絶対ではない。親は、それだけに左右されず、むしろ子どもの価値の一番の理解者であり続けなければならない。

そのために“世間一般”の尺度、たった30センチの物差しを子どもに当てて見るのではなく、何百メートルもあるメジャーを持って、子どもの可能性を広げてあげられる親でありたい。

「石川 遼の育て方」から引用 著者：父親 石川 勝美

日本最高峰の富士山、その高さや雄大さ、優美さを支えているのは、静岡・山梨両県の6つの市町村だそうです。また「山の裾野が広ければ広いほど、頂上も高くなる」とも言われるなど、土台づくりや基礎・基本の大切さはよく山に例えられています。この土台づくりをするのが小学校期であると言えます。

頂上を急ぐ前に、高い山になるための基礎・基本をじっくり身に付けさせたいものです。本年度、本校では、今求められている「生きる力」を育てるための取り組みの一つとして、授業中はもちろん各種集会や行事の中でも「音声化」（大きな声で、発言・あいさつ・返事）に取り組んでいます。この取り組みが、確かな学力や豊かな心づくり、たくましい体づくりなど、「生きる力」の土台になるものだと考えているからです。今後も学校と家庭とが連携し合って、どっしりとした人生の裾野を築いてあげたいと思います。どうか趣旨をご理解の上、地域やご家庭においてもご指導・ご助言をお願いします。